

株式会社エクストランス

X-MON 3.0.5

アップデート内容

内容

概要.....	3
新機能.....	4
エスカレーション機能	4
IPv6 での監視を追加	6
一部の監視がグラフ表示に対応.....	6
Linux サーバ、Windows サーバ、ネットワーク機器の監視パッケージを追加 ..	7
変更内容	9
イベントハンドラよりエスカレーション機能への移行.....	9
エスカレーション機能追加に伴い、一部削除制限の追加	12
Nagios デーモンのバージョンアップに対応	12
VMware CPU 監視のグラフ描画時に小数点以下の値も表示するよう変更	12
警告灯管理をオペレータ権限で使用可能	13
障害時点灯設定の n 秒後の処理のデフォルトを変更.....	14
障害の再通知を行わない設定が可能.....	15
分指定で通知及びエスカレーションを遅らせる時間を設定できるように変更..	16
バックアップ管理にバージョン番号の表示.....	16
ユーザ ID の最大設定文字数を 64 文字に拡大	17
設定項目の入力値の範囲を変更.....	18
TRAP 受信時に制御記号を除去するよう変更	19
通常点灯時の点灯条件の変更	20
整数値の監視を行っている SNMP 監視で文字列を検出時のステータスを変更	21
設定一括変更のチェックコマンドをより細かく指定できるように変更	22
監視チェック前のホスト・サービスに次回チェック予定時刻を表示	23
通知履歴でメール通知とコマンド実行の履歴の絞り込み機能を追加	24
高度な設定の監視プラグイン設定の引数の入力欄を拡大	26

概要

X-MON3.0.5 のアップデートにより、以下の機能が追加されました。

- エスカレーション機能の追加
- IPv6 での監視を追加
- 一部の監視がグラフ表示に対応
- Linux サーバ、Windows サーバ、ネットワーク機器用の監視パッケージを追加

X-MON3.0.5 のアップデートにより、以下の機能が変更されました。

- イベントハンドラよりエスカレーション機能への移行
- エスカレーション機能追加に伴い、一部削除制限の追加
- Nagios デーモンのバージョンアップに対応
- VMware CPU 監視のグラフ描画時に小数点以下の値も表示するよう変更
- 警告灯管理をオペレータ権限で使用可能(承認機能が追加されました)
- 障害の再通知を行わない設定が可能
- 分指定で通知及びエスカレーションを遅らせる時間を設定できるように変更
- バックアップ管理にバージョン番号の表示
- ユーザ ID の最大設定文字数を 64 文字に拡大
- 設定項目の入力値の範囲を変更
- TRAP 受信時に制御記号を除去するよう変更
- 通常点灯時の点灯条件を変更
- 整数値の監視を行っている SNMP 監視で文字列を検出時のステータスを変更
- 設定一括変更のチェックコマンドをより細かく指定できるように変更
- 監視チェック前のホスト・サービスに次回チェック予定時刻を表示
- 通知履歴でメール通知とコマンド実行の履歴の絞り込み機能を追加
- 高度な設定の監視プラグイン設定の引数の入力欄を拡大

次のページより主な追加機能及び変更点をご紹介します。

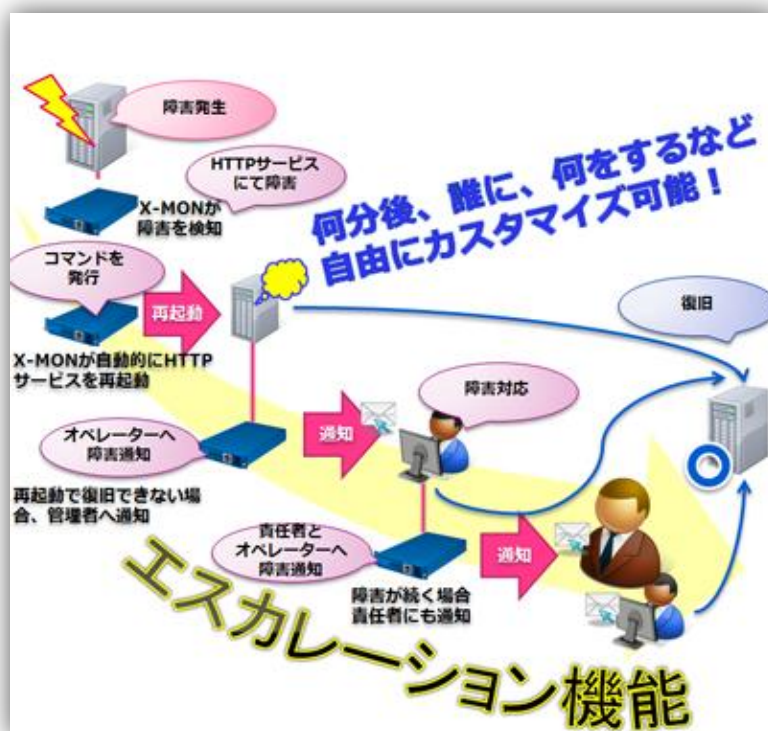
新機能

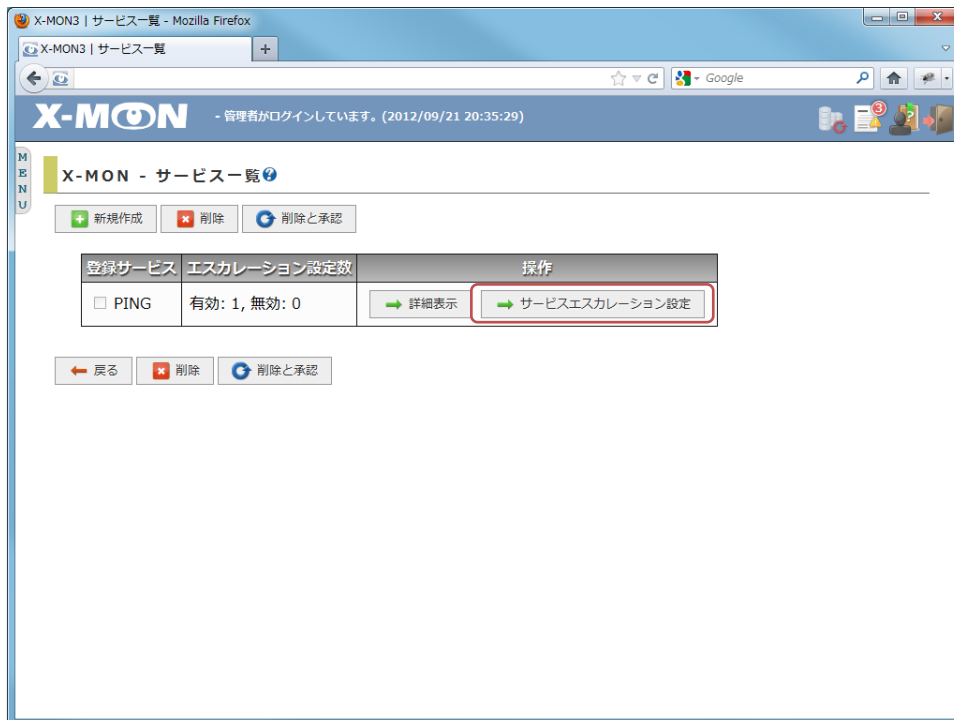
エスカレーション機能

X-MON3.0.5 より、エスカレーション機能を追加しました。


エスカレーション機能の実装に伴い、以下の柔軟な対応を行うことが可能になります。

- ・ 指定された実行タイミングに対し、別ユーザ、ユーザグループへ障害のエスカレーション通知
- ・ 障害発生より指定された実行タイミングにエスカレーションコマンドを実行





ホスト、サービス、監視パッケージサービスでエスカレーションの設定を行えます。エスカレーション設定を行う場合、一覧画面にエスカレーション設定ボタンが追加されています。

サービスにエスカレーション設定を行う場合、 をクリックし、設定画面へ遷移します。

詳細な設定方法や挙動に関しては、X-MON サポートサイトより別紙「エスカレーション設定マニュアル」をご参照ください。

IPv6 での監視を追加

新たに IPv6 での監視を追加いたしました。

IPv6 監視が追加された監視プラグインは以下になります。

- ・ **SNMP 監視(v1,v2 対応)**
 - SNMP 任意 OID 監視
 - SNMP 任意 OID 正規表現監視
- ・ **SNMP 監視(v3 対応)**
 - SNMP 任意 OID 監視(認証)
 - SNMP 任意 OID 監視(認証暗号化)
 - SNMP 任意 OID 正規表現監視(認証)
 - SNMP 任意 OID 正規表現監視(認証暗号化)

一部の監視がグラフ表示に対応

以下の監視が新たにグラフを生成できる監視になります。

- ・ NRPE 経由でのメールキュー監視
- ・ NRPE 経由での HTTPS 監視

Linux サーバ、Windows サーバ、ネットワーク機器の監視パッケージを追加

よく監視される Linux サーバ、Windows サーバ、ネットワーク機器用のサービスを監視パッケージとしてご用意致しました。

ホスト登録後に適用することで、各種ホストに合った基本的な監視をまとめて登録することができます。

項目名	内容
Cisco2960-24 トラフィック監視	Cisco2960-24 に対応したトラフィック監視と PING 監視のサービスをホストに登録します。
Cisco2960-48 トラフィック監視	Cisco2960-48 に対応したトラフィック監視と PING 監視のサービスをホストに登録します。
Linux 標準監視	Linux の標準監視サービスをホストに追加します。
Linux メールサーバ監視	Linux の標準監視サービスとメール監視サービスをホストに追加します。
Linux MySQL サーバ監視	Linux の標準監視サービスと MySQL 監視サービスをホストに追加します。
Linux PostgreSQL サーバ監視	Linux の標準監視サービスと PostgreSQL 監視サービスをホストに追加します。
Linux Web サーバ監視	Linux の Web サーバ監視サービスをホストに追加します。
Windows 標準監視	Windows の標準監視と PING 監視サービスをホストに追加します。
Windows AD サーバ監視	Windows の Active Directory に対応した標準監視サービスをホストに追加します。
Windows DNS サーバ監視	Windows の DNS サーバ監視と PING 監視のサービスをホストに追加します。
Windows メールサーバ監視	Windows のメールサーバ監視と PING 監視のサービスをホストに追加します。
Windows Microsoft SQL Server 監視	Windows の Microsoft SQL Server 監視と PING 監視のサービスをホストに追加します。
Windows Web サーバ監視	Windows の Web サーバ監視サービスをホストに追加します。

X-MON3 | 監視パッケージ一覧 - Mozilla Firefox

X-MON3 | 監視パッケージ一覧 +

X-MON - 管理者がログインしています。(2012/10/05 19:28:45)

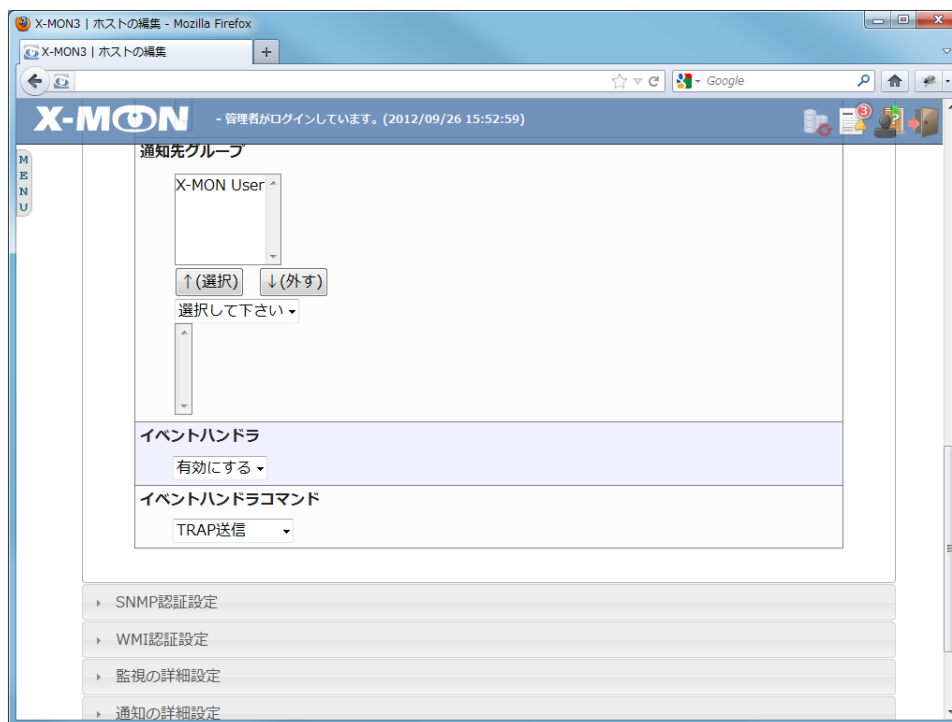
M
E
N
U

監視パッケージ一覧

ID	名称	操作
<input type="checkbox"/> xmon-default-linux	Linux標準監視	<input type="button" value="詳細表示"/> <input type="button" value="監視パッケージ設定"/>
<input type="checkbox"/> xmon-default-linux-mail	Linux メールサーバ監視	<input type="button" value="詳細表示"/> <input type="button" value="監視パッケージ設定"/>
<input type="checkbox"/> xmon-default-linux-mysql	Linux MySQLサーバ監視	<input type="button" value="詳細表示"/> <input type="button" value="監視パッケージ設定"/>
<input type="checkbox"/> xmon-default-linux-pgsql	Linux PostgreSQLサーバ監視	<input type="button" value="詳細表示"/> <input type="button" value="監視パッケージ設定"/>
<input type="checkbox"/> xmon-default-linux-www	Linux Webサーバ監視	<input type="button" value="詳細表示"/> <input type="button" value="監視パッケージ設定"/>
<input type="checkbox"/> xmon-default-windows	Windows標準監視	<input type="button" value="詳細表示"/> <input type="button" value="監視パッケージ設定"/>

変更内容

イベントハンドラよりエスカレーション機能への移行



X-MON3.0.5 より TRAP 送信、警告灯の点灯はエスカレーション設定にて行います。ホストやサービス、監視パッケージサービス設定の「イベントハンドラ」項目に TRAP 送信、または警告灯の点灯が設定されている場合、アップデートを実施した際にエスカレーション設定へ自動移行されますのでご注意ください。

注意

アップデート後、通知先グループとイベントハンドラコマンドを設定しているホスト設定・サービス設定につきましては、設定している再通知間隔より短い間隔で再通知メールが送信されます。このような設定のホスト・サービスに関しましては、お手数ですが、アップデート後に通知先グループの設定とエスカレーション設定を修正して頂きますよう宜しくお願い致します。

《設定変更例》

アップデート前に表 1 のような設定を行っていたサービス設定はアップデート後、表 2 のようにイベントハンドラコマンドの設定が変更され、新たにサービスエスカレーション設定が追加されます。このとき、アップデート前には障害発生後 120 分後に X-MONUsers 宛に送信されていた再通知メールが、アップデート後には障害発生後 5 分後に送信されるようになります。

アップデート前のように 120 分後に X-MONUsers 宛に再通知メールを送信するには、表 3 のように設定を変更します。

表 1. アップデート前設定

設定項目	設定値
サービス設定	
通知先グループ	X-MONUsers
イベントハンドラコマンド	TRAP 送信
再通知間隔(分)	120

表 2. アップデート後設定

設定項目	設定値
サービス設定	
通知先グループ	X-MONUsers
イベントハンドラコマンド	無し
再通知間隔(分)	120
サービスエスカレーション設定	
エスカレーション間隔(分)	5
パネル 1	
実行内容	コマンドを実行「TRAP 送信(サービス用)」
実行タイミング	1 回目から 1 回実行する
対象ステータス	WARNING, CRITICAL, UNKNOWN, 復旧時

表 3.設定修正例

設定項目	設定値
サービス設定	
通知先グループ	(無し)
イベントハンドラコマンド	無し
再通知間隔(分)	120
サービスエスカレーション設定	
エスカレーション間隔(分)	120
パネル 1	
実行内容	コマンドを実行「TRAP 送信(サービス用)」
実行タイミング	1 回目から 1 回実行する
対象ステータス	WARNING, CRITICAL, UNKNOWN, 復旧時
パネル 2	
実行内容	メール通知を実行「X-MONusers」
実行タイミング	1 回目から実行する
対象ステータス	WARNING, CRITICAL, UNKNOWN, 復旧時

エスカレーション機能追加に伴い、一部削除制限の追加



エスカレーション設定で使用された「ユーザ」「ユーザグループ」「警告灯管理 > 障害時点灯設定」に関しては設定を外さない限り削除できませんのでご注意ください。

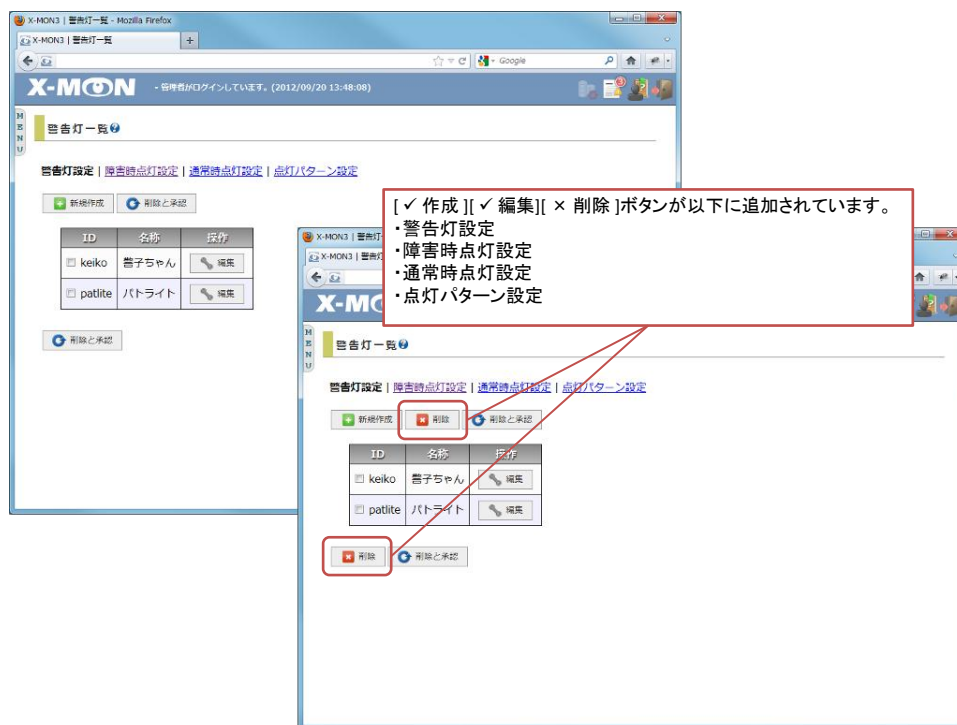
Nagios デーモンのバージョンアップに対応

X-MON で利用している Nagios デーモンを最新版である Ver 3.4.1 へアップデート致しました。

VMware CPU 監視のグラフ描画時に小数点以下の値も表示するよう変更

X-MON3.0.4 以前は整数値しか表示されませんでした。X-MON3.0.5 より、VMware CPU 監視のグラフ描画時に小数点以下の値も表示するよう変更しました。

警告灯管理をオペレータ権限で使用可能



X-MON3.0.5 より警告灯管理に承認機能が追加になりました。

承認機能が追加されたことによりオペレータ権限で閲覧、登録、編集、削除を行えるようになりました。

※ システム管理者、または運用責任者に承認されない限り反映はされません。

障害時点灯設定の n 秒後の処理のデフォルトを変更

障害時点灯設定の n 秒後の処理のデフォルトを、復旧時は 3 秒後に消灯消音、障害時は 5 秒後に消灯消音に変更しました。

The screenshot shows the 'X-MON3 | 障害時点灯設定の作成' (X-MON3 | Alarm Point Light Setting Creation) interface. The page title is 'X-MON3 | 障害時点灯設定の作成' and the user is logged in as '管理者がログインしています。(2012/10/06 16:07:06)'. The interface is divided into several sections:

- 警告灯通知タイプ** (Alarm Notification Type): Host for Alarm Notification (ホスト用警告灯通知).
- 警告灯通知名称** (Alarm Notification Name): Host Alarm Point Light Setting (ホスト障害時点灯設定).
- DOWN/CRITICAL時の処理詳細** (DOWN/CRITICAL State Processing Details):

警告灯	障害発生時	5秒後の動作
警告灯1	赤点滅・音有り	消灯消音
警告灯2	赤点滅・音有り	消灯消音
- UNREACHABLE/WARNING時の処理詳細** (UNREACHABLE/WARNING State Processing Details):

警告灯	障害発生時	5秒後の動作
警告灯1	赤黄緑点滅・音有り	消灯消音
警告灯2	赤黄緑点滅・音有り	消灯消音
- UNKNOWN時の処理詳細** (UNKNOWN State Processing Details): Host for Alarm Notification does not register (ホスト用警告灯通知では登録を行えません).
- UP/OK時の処理詳細** (UP/OK State Processing Details):

警告灯	障害発生時	3秒後の動作
警告灯1	赤点滅・音有り	消灯消音
警告灯2	赤点滅・音有り	消灯消音

障害の再通知を行わない設定が可能

The screenshot shows the X-MON3 service configuration interface in Mozilla Firefox. The main content area displays notification settings for a service. A red-bordered box highlights a diagram and the '再通知間隔(分)' (Re-notification interval) field.

Diagram 1 (Top): Shows a sequence of four red person icons representing recipients. A green arrow labeled '障害発生時' (Incident occurrence) points to the first icon. Red arrows labeled '120分' (120 minutes) connect the icons, indicating re-notification intervals. Text below: 「再通知間隔「120」を指定すると、120分おきにメール通知が行われます。」 (When the re-notification interval is set to '120', email notifications are sent every 120 minutes.)

Diagram 2 (Bottom): Shows a single red person icon. A green arrow labeled '障害発生時' (Incident occurrence) points to it. Text below: 「再通知間隔「0」を指定すると、障害発生時1度メールを送信し、再通知を行いません。」 (When the re-notification interval is set to '0', an email is sent once at the time of the incident, and no re-notification is performed.)

Form Fields:

- 通知機能: 有効にする (checked)
- 通知の対象: 5 checked checkboxes for service status notifications
- 通知の時間帯: 24時間365日
- 再通知間隔(分): 0 (highlighted with a red box)
- 初期通知の遅延時間(分): 0

Bottom navigation: フラッピングの設定, 高度な設定

X-MON3.0.4 以前では必ず再通知が行われる仕様となっておりましたが、X-MON3.0.5 より再通知を行わない設定が可能となりました。

設定方法としては、ホストやサービス設定画面の再通知間隔(分)に「0」を指定することで障害発生時にメール通知を行い、その後は再通知を行わなくなります。

※ エスカレーション設定を行っている場合はエスカレーション間隔が優先されますので、エスカレーション設定内容に応じたエスカレーションと、それに伴い再通知が実行されます。

分指定で通知及びエスカレーションを遅らせる時間を設定できるように変更

ホスト・サービス詳細画面の「通知及びエスカレーションを遅らせる」コマンドで、UNIX タイムではなく分指定で、障害を検出した時に次回通知を遅らせる時間を設定できるように変更しました。

バックアップ管理にバージョン番号の表示

The screenshot shows the 'Backup Management' interface. At the top, there is a header 'バックアップ一覧' and a link '通常のバックアップ | バックアップのアップロード'. Below this is a table with columns: 'バックアップ日時', '内容', 'サイズ', and '操作'. A row is highlighted with a red box around the '内容' column, which contains 'バックアップバージョン4' and sub-items '監視設定情報' and 'ライセンス情報'. Below the table, there is a sidebar with a search bar and a list of services to monitor, including DHCP, DNS, FTP, LDAP, Linux/Unix resources, RPC, Radius, SNMP, SSH, VMware, Web, and Windows services. The main content area is titled 'バックアップの種類について' and contains instructions on how to create backups. It includes a table mapping file names to backup versions and X-MON versions.

ファイル拡張子	バックアップバージョン	X-MONのバージョン
xb1	1	3.0.0~3.0.1
xb2	2	3.0.2~3.0.3
xb3	3	3.0.4
xb4	4	3.0.5

X-MONの監視設定情報

下記監視設定ファイルのバックアップを作成します。

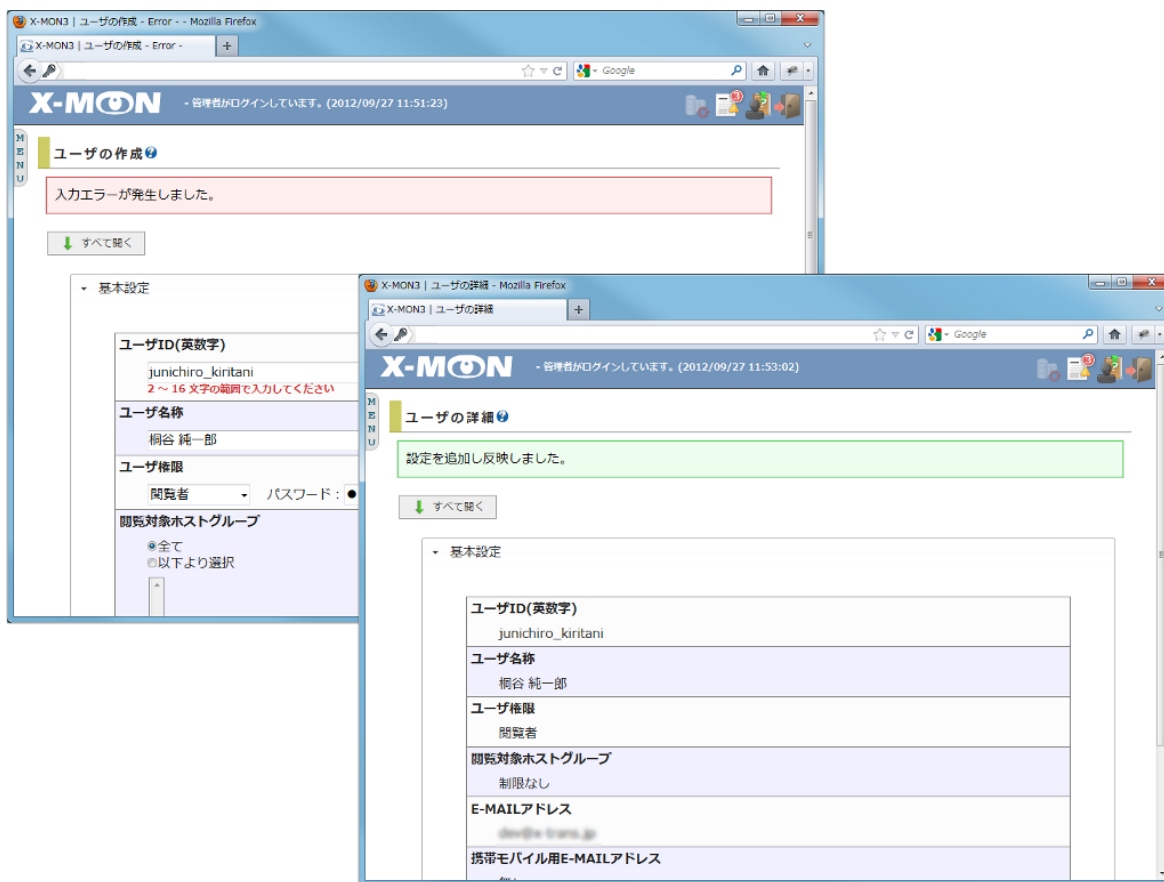
バックアップ対象	対応バックアップバージョン
承認履歴	バックアップバージョン2から

取得したバックアップファイルのバージョンが表示されます。

また、オンラインマニュアルに各機能がどのバックアップバージョンから含まれているか記載しております。

なお、X-MON3.0.5 よりリストア処理を行った際に再起動が行われるようになりました。

ユーザ ID の最大設定文字数を 64 文字に拡大



管理者メニュー「ユーザ管理」ユーザ ID 項目の入力制限が 16 文字から 64 文字へ変更されました。

設定項目の入力値の範囲を変更

管理者メニューの各管理の設定項目のうち、一部設定項目の入力値の範囲が変更されました。

設定項目	変更後の範囲
ホスト設定	
試行回数	1 から 1576800 まで
監視間隔	0 から 1576800 まで
再試行間隔(分)	0 から 1576800 まで
再通知間隔(分)	0 から 1576800 まで
初期通知の遅延時間(分)	0 から 1576800 まで
フラッピング検出の低しきい値(%)	0 から 100 まで
フラッピング検出の高しきい値(%)	0 から 100 まで
フレッシュネスしきい値(秒)	0 から 94608000 まで
サービス設定	
試行回数	1 から 1576800 まで
監視間隔	0 から 1576800 まで
再試行間隔(分)	1 から 1576800 まで
再通知間隔(分)	0 から 1576800 まで
初期通知の遅延時間(分)	0 から 1576800 まで
フラッピング検出の低しきい値(%)	0 から 100 まで
フラッピング検出の高しきい値(%)	0 から 100 まで
フレッシュネスしきい値(秒)	0 から 94608000 まで

TRAP 受信時に制御記号を除去するよう変更

以下の制御記号がメッセージで送られてきた場合、改行等を行わないように回避しました。

16 進	文字
0x09	HT(水平タブ)
0x0A	LF(改行)
0x0B	VT(垂直タブ)
0x0C	FF(改ページ)
0x0D	CR(復帰)

通常点灯時の点灯条件の変更

X-MON3.0.5 より認知済みやダウンタイム中などの状態は点灯すべき障害と判断しないよう変更致しました。

例と致しましては、下図のように UNKNOWN のサービスが「1」である場合に対象のサービスを認知済み又はダウンタイムに設定すると UNKNOWN であるサービスは無いという判定になります。

そのため、全ての障害を認知済み又はダウンタイムに設定した場合に何も障害が行っていない場合の通常時点灯を行います。

The screenshot shows the X-MON3 status information window. The 'ステータス情報' (Status Information) section contains the following data:

全ホスト	全障害	UP	DOWN	UNREACHABLE	PENDING
18	4	14	4	0	0

全サービス	全障害	OK	WARNING	UNKNOWN	CRITICAL	PENDING
18	4	14	0	1	3	0

DOWN	UNREACHABLE	CRITICAL	WARNING	UNKNOWN
4	0	3	0	1

UNKNOWNサービスをダウンタイム、または認知済みに設定すると以下の点灯パターンで点灯します。

DOWN	UNREACHABLE	CRITICAL	WARNING	UNKNOWN
○	×	○	×	×

The configuration table below shows the '対応ステータス' (Corresponding Status) for various settings:

DOWN	UNREACHABLE	CRITICAL	WARNING	UNKNOWN	設定
×	×	×	×	×	設定
○	×	×	×	×	設定
×	○	×	×	×	設定
○	○	×	×	×	設定
×	×	○	×	×	設定
○	×	○	×	×	設定

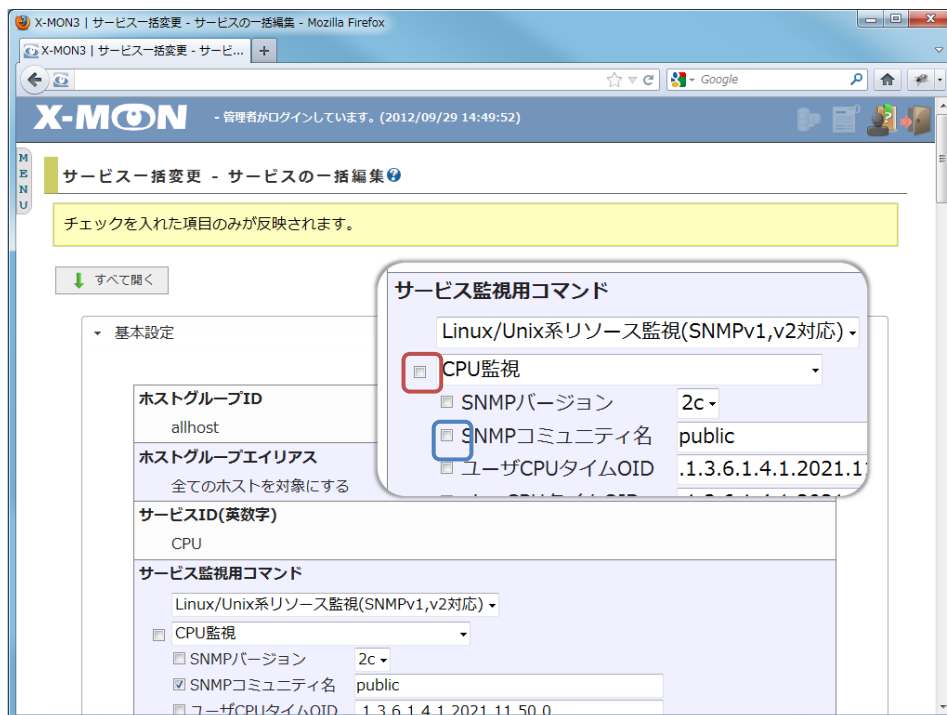
整数値の監視を行っている SNMP 監視で文字列を検出時のステータスを変更



整数値の監視を行っている SNMP 監視で文字列を検出した場合「OK」を返していましたが、「UNKNOWN」を返すように変更致しました。

※ SNMP 任意 OID 監視、SNMP 任意 OID 正規表現監視は文字検出を行う為、「UNKNOWN」にはなりません。

設定一括変更のチェックコマンドをより細かく指定できるように変更



管理者メニュー「設定一括変更」のチェックコマンドの引数をより細かく指定できるように変更致しました。

上記赤枠「サービス監視用コマンド」にチェックが入っている場合、対象サービスのコマンド、及び引数を全て変更します。

上記青枠「引数」部分にのみチェックをいれた場合、同一「サービス監視用コマンド」を使用している対象サービスのみ指定された引数部分の変更を行います。

監視チェック前のホスト・サービスに次回チェック予定時刻を表示

監視メニュー「ホスト一覧表示」、「サービス一覧表示」に表示されるチェック前のアクティブチェックのホスト・サービスのステータス情報欄に、次回チェック予定時刻を表示するように変更しました。ただし、オンデマンドチェックや、パッシブチェックを行っている場合は、今まで通り「スケジュールが行われていません」と表示されます。



The screenshot shows the X-MON monitoring dashboard. At the top, it says '管理者がログインしています。(2012/10/06 17:26:34)'. Below that is the 'サービス一覧表示' (Service List) section. There is a search bar for 'ホストID検索' (Host ID Search) with a '検索' (Search) button. The main content is a table with the following columns: 'ホストID (ホスト名称)', 'サービスID', '状態', '最終チェック時刻', '経過時間', '試行回数', and 'ステータス情報'. The first row of data shows 'X-MON (X-MON)' as the host, 'PING' as the service, '保留(PENDING)' as the status, 'N/A' for both the last check time and elapsed time, and '1/3' for the number of attempts. The 'ステータス情報' column for this row contains the text '次回チェック予定日時は、2012年10月05日 17時56分12秒です。' (The next check scheduled time is 2012/10/05 17:56:12). Below the table, it says '条件にあった1個のサービスを表示しています' (Displaying 1 service matching the conditions). On the right side, there is a '表示フィルタ' (Display Filter) section with four options, all set to '全て' (All): 'ホスト状態の種類' (Host status type), 'ホストプロパティ' (Host property), 'サービス状態の種類' (Service status type), and 'サービスプロパティ' (Service property).

ホストID (ホスト名称)	サービスID	状態	最終チェック時刻	経過時間	試行回数	ステータス情報
X-MON (X-MON)	PING	保留(PENDING)	N/A	N/A	1/3	次回チェック予定日時は、2012年10月05日 17時56分12秒です。

通知履歴でメール通知とコマンド実行の履歴の絞り込み機能を追加

監視メニュー「通知履歴」「-host情報」「サービス情報」の通知履歴で、メール通知と TRAP 送信、警告灯点灯、ユーザコマンド実行の履歴を絞り込んで表示することができるように変更しました。



「通知履歴」では、画面上部に表示されているセレクトボックスで表示したい通知を選択し、更新ボタンを選択すると選択した通知のみ表示されます。



「ホスト情報」「サービス情報」の通知タブでは、「全ての通知」、「メール通知」、「コマンド実行」のタブが追加されています。表示させたい通知のタブを選択すると、選択された通知が表示されます。

高度な設定の監視プラグイン設定の引数の入力欄を拡大

管理メニュー「高度な設定」の「監視コマンド設定」の引数の入力欄を拡大しました。

The image shows a configuration form for monitoring commands. The form is divided into several sections, each with a label and a corresponding input field or dropdown menu. The sections are:

- コマンドID(英数字): Input field
- コマンド名称: Input field
- コマンドタイプ: Dropdown menu (ホスト用コマンド)
- コマンドグループ: Dropdown menu (DHCPサービス監視)
- 実行コマンド: Dropdown menu (check_apt)
- 引数: Input field (highlighted with a red box)

A green arrow points from the '引数' field in the first section to a larger, expanded version of the '引数' field in the second section. This expanded field is also highlighted with a red box and contains the following text:

引数
※ 改行コードは空白に置き換えられます。

以上